日本紀歌通解

中

リ 5
5398
2

門 リ 5
號 5398
卷 2

昭和十年
七月二八日
購求

日本紀歌解攪乃落葉中卷

皇大神宮權禰宜從四位下荒木田神主光謹撰

第十一卷

大鷦鷯天皇。二十四首。仁德天皇。

然後大山守皇子每恨先帝廢之非立。而重有是怨。則謀之曰。我殺大子遂登帝位。爰大鷦鷯尊豫聞其謀密告太子備兵令守。時大子設兵待之。大山守皇子不知其備兵。獨領數百兵士。夜半發

而行之。會明詣菟道將渡河時。大子服布袍取檝櫓密接度子。以載大山守皇子而濟至于河中。詐度子蹈船而頃於是大山守皇子。墮河而沒。更浮流之歌曰。

知破椰臂苔陵威速人也。宇治之河瀬。所托冠詞。考之新撰。

于旋能和多利珥。宇治河のわたりなり。佐烏刀利珥。棹取示也。釈紀ハ謂舟檝櫓也。ちかい後ろでとき檝と執て。船をとるもの。舟人のこと。梶を取るとり。

破椰鶏務臂苔辭。將提人斯也。斯ハ助語。椰ハ疾船。を進めるなり。我を提ものいふ。和餓毛胡珥虛務。吾許處ホ將來也。侍者或ハ左右の人。とものあく。とらふる。許處人也。今ハ子孫。首て毛胡と云へる。

然伏兵多起。不得着岸。遂沈而死焉。令求其屍。泛於考羅濟時。大子視其屍歌之曰。

知破椰臂等。句。于旋能和多利珥。二句如上。和多利湿珥多豆流。渡手ホ所立也。手ハ今の手。みなと。火のみ。井のみ。大ほ。樹のもとなどいふなどの活用をいふ。前所殖。所殖此云ハ多底婁也。湯津杜木云云。古事記ハ。和多利是也。渡船なるべし。所立を神代紀ハ天稚彦門とあるの也。古事記ハ。和多利是也。渡船なるべし。所立を神代紀ハ天稚彦門。

[illegible]

事紀ノ説ハ[illegible]

[illegible]

の弓末振起シ立テ[illegible]

擎由 瀰 梓弓檀弓也 [illegible]

柘檀トモ[illegible]

[illegible]

四ノ横殺雲卷十二ノ殺目山 虚々呂破望閑耐

[illegible]

の約[illegible]

伊斗羅年苔 射將取登也 殺取ル[illegible]

耐 如上 註 望苔帯破 本邊者也 弓[illegible]

阿豆瑳由瀰

虚々呂破望閑

虚々呂破望

[illegible]

末花咲末辺者椿花咲トハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

望臂湿 君乎思出也君トハ[illegible]

上ラツブメシ 高華統ケ[illegible]

破 末辺者也弓ヨリ[illegible]

葉十二ノ梓弓末中一伏三起[illegible]

比湿 妹乎思出也六山守皇[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

於望臂。此處示思也。[illegible]

曾區屢。不射殺曾來也。阿豆瑳由瀰弩由瀰。如上註。[illegible]

山守皇子ハ朝廷頃へと志[illegible]の罪あれば。射殺んとせ[illegible]

十一六年秋七月戊寅朔。天皇以宮人桑田玖賀媛示迩習舎人等曰。朕欲愛是婦女苦皇后之妬。不能合以經多年何徒棄其盛年乎。即歌曰。

瀰儺曾虜赴

[illegible]

斯毘都久阿森。[illegible]

魚の名をあびーもいう。[illegible]

[illegible]

[illegible]

○近江の浪乙女の二字を解
よのからの臣女の二字
を誤りて加
加く倫て皆乙の
字や。書紀に
はあざ乙女とあ
ることくしくるくき
はいうまでも。

○再按ズ速待とは
待とるとは
ふるふるうり。

淤浙能烏苫咩烏。臣之嬢子也。臣とは官人をのゝ称也。武烈紀の歌に飲浙能臣の巻三に臣乃壮士巻四に臣女とある乙也。多例挪始灘播務。誰将養也。れがまゝ〜〜やおそむ

四に臣女とある乙也。多例挪始灘播務。誰将養也。れがまゝ〜〜やおそむ

彼巻〜〜解。係考べし。

於是播磨國造祖速待。獨進之歌曰。

瀰箇始報。叢汝也。美加。伊加。とも。武甕槌神と武雷神と。

いへる。播磨國はかゝて汝路のおそれ速待の歌あ云ま

でかけて。常破利摩破椰磨智。播磨速待也速人播磨

待は人の名。

椰輸。今若崩也。なほをも。家ほが如き。蓋白とい云ふ言ばしあるべし。

加之古俱等望。雖恐懼也。白すもとなりとも。といふ言や。阿例椰始灘

破務。我將養也。

即日以玖賀媛賜速待。

二十二年春正月。天皇語皇后曰。納八田皇女將為妃。時皇后不聽。爰天皇歌以乞於皇后曰。

于麼臂苫能。淑人之也。上神功紀多莵屢虚等太互所乞言立也。皇后の立ることを立ることを立ることを。人祖乃立流辞立云。又世之人能多都流許登天互云云と見えたり。漢籍論語よ。夫仁者己欲立而立人。

于瑳由豆流。設弦也。神功紀に今曰各儲弦藏髮中。古事記仲哀條曰爾自

頂髮中採出設弱一由豆流一名二三千佐藏弓弦の脆弱なるを
[illegible]
多曳磐莧餓
奈羅陪豆毛餓望
弩珥、絶間將繼示也、皇后[illegible]
[illegible]
並而毛蕚也、皇后[illegible]
[illegible]
[illegible]

皇后、谷歌曰、

虛呂望虛曾衣已曾也、[illegible]
赴多弊茂豫
者、二重も宜也、上[illegible]
瑳用迺虛烏、小夜床手也、寢所の床とも、
[illegible]
小夜の[illegible]
夜床[illegible]
那羅倍勢
者瀰破、將並君者也、皇后と八田皇女と夜床を[illegible]
箇志古春呂箇

茂、恐呂哉也、[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

天皇又歌曰、

於辭豆屢、押照也、和歌[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

皇后、答歌曰。

那蒐務始能夏虫乃也。この夏虫を蠶といふ。和名抄云玉臂務

始能虛呂望。蠶音元。和名奈都古。晩蠶也。と見えたり。

蠶乃衣也。和名抄云。文字集略云。蠶。今按即是蛾蛇之蛻也。和名比流。

爾[illegible]老蠶也。とえたり。[illegible]

武藏國秩父郡[illegible]彼國人蠶の繭[illegible]

化[illegible]比流[illegible]又比流[illegible]

[illegible]

[illegible]

夜儴利破。儴弥足者也。即蠶の繭をいひ。その蛻を弥足といへり。

阿珥

豫區望阿羅孺。豫能毛不有也。[illegible]

[illegible]

天皇又歌曰。

阿佐豆磐能朝妻乃也。大和國。葛上郡の地名也。姓氏錄に。大和朝津

[illegible]

[illegible]

箇能鳥瑳箇鳥。避鳥之小坂也。避鳥。地名のよしい[illegible]

[illegible]

[illegible]

箇多那耆耳

[illegible]

道行者 多愚臂弖序豫枳。偶而曾喜也。九月乙卯朔乙丑。皇后遊行

副而曾來罷乃濱邊乎。[illegible]

皇后遂謂不聽。故默之。而不答言。

三十一年秋九月乙卯朔乙丑。皇后遊行

紀伊國到熊野岬。即取其処之御綱葉而

還於是日天皇伺皇后不在而要八田

皇女納於宮中。時皇后到難波濟。聞天

皇合八田皇女而大恨之。則其所採御

綱葉投於海而不着岸。故時人號散葉

之海曰葉濟也。爰天皇不知皇后怒不

着岸。親幸大津待皇后之船。而歌曰

那珥波譬苔

難波人也。万葉巻十一。難波人芽大燎屋之三三都人

或ハ瀬戸人ちとらふ歌よて。人々ハ[illegible]彼をいし

てらつ云ふ所なるべし。近世古学者流自称
して某國人といふもいふべきやうなれども。
也須儒赴泥苔羅齊
也須儒船を官船とも船を駅鈴の数なるべし。執
鈴丹反
綱ひとと船をとりつゝ。せハるゝと下紐するなるべし。執
也
許辭那豆瀰腰悩也
つむハ。古事記景行の條に阿佐士怒波良許斯那豆牟。万葉巻十三に。夏州手腰不美
積云云巻十九に落雪平腰不奈都美氏云云。よみつむとふこゝの中に入ること
あるを云ふ。也を上に那豆牟の下につゝ那豆佐布れとつゝ同しことなれ
へしいはるを非〳〵ハ小竹原にも夏州にも腰まで踏入るとすべく
須なつむ〳〵。いふかゝべし。
悩の字をなれば苦しの意なるべし。
曾能赴尼苔羅齊其那之執也
ハ。船を於朋瀰赴泥苔禮大御船呼執也。皇后の乘給ふる官船
也。
時皇后不泊于大津更引之泝江自山
背廻而向倭。明日天皇遣舍人鳥山令

還皇后。乃歌之曰。古事紀ハ。こゝに天の次ぎの歌と
ありて。次ぎの歌ハ。
夜莽之呂珥。山背尓也。國尓也。
皇后のいでゝ。山城のまゝ。
皆利夜莽。伊及鳥山也伊ハ。発語。及ハ。神代紀に及之共読とあり。万葉
とり。鳥山ハ。伊辭鷄之鷄。伊及々也。古事紀に伊斯祁伊斯祁と
舍人の名也。
阿餓茂赴菟磨珥。吾思妻尓也。於乎省
ふ。阿餓ハ。阿餓波斯豆麻迩。
古事紀ハ。阿餓波斯豆麻迩。
牟伽茂。伊及將遇哉也。
伊辭枳阿波
皇后不還猶行之至山背河。而歌曰。古事記云。

○上の使ハ。吾妻紀ハ歌
鳥をとゝ。
ありしとあり。且
ちなるべし。使とせる。
ちなる。
紀三年紀。王拜の歌に
いふなるべし。
ちの
山も。山城一の
ちなれ。
○ちの山背ハ。八の
淀川。木津川の合

て流れる大川をとる。
堅口は南のあと大和
川と云ふ。あるいは
口もこの考。雄略の
紀考一冊あり。按
てゝべし。
○高市郡は つぎねふ
庭と。中の一云えゝ
つゝり。

○高市郡の
中也と侍るゝ。氣庭
は荒妙井除水三代
博ゝ。その地と同く
べきなれば同名なる

即不入坐宮而引避其御船泝於淀江。
隨河而上幸山代此時歌曰云云。

菟餓泥赴 とりふ古云。万葉第十。白土を無くゝ云。假字を用ひゝ。
續丹生也。中ゝ
生ハ蓬生淺茅生也。そゝて。
とりふ。万葉巻十一。淺茅原しもとゝ。
ハ。家庭代して。應神の大伊
代ゝ。苗代細代の代ゝて。
庭ハ。手弟とりきなれども。
呂餓波烏。山背河手也。
ゝ。淺川ゝ隨ていでゝ。
山城のまゝ。
餓能朋例磨。我泝者也。
の曲ゝ。
紀ハ。地波能倭迩。

椰莽之
椰素磨能
於朋者
多知瑳水踰屢。立野栄也。万葉巻七
ゝ。開木代之來背仕。

草刈手折。巳時立雖栄草刈手折。古事記ハ。
斐陀ゝ流佐斯支。
紀破。ハ抓棲木者也。ハ。
斐陀ゝ流佐斯支。表佐斯支能紀斯賀斯支逆波氐流波毘ゝ
由都麼都麼岐斯賀波奈能氐理伊麻斯斯賀波能比ゝ理伊麻須波。
瀰呂以茂。大王ゝ也。
公ハ。
そと。天皇を恨。
即越那羅山望葛城歌之曰。

毛々多羅孺。百不足也。
八十ゝ。
於朋者
ゝ。
紀云。即自山代
廻到坐那良山口歌
曰云云。

莵藝泥赴。古事記に赴の下に夜の字あり。椰椰之呂餓波烏。如上註。瀰椰能朋利。水脉汴也。みぬ〻。船人の云ふ。みぬとは行て見ぬ〻。やはり。通ふ。源氏紀に。青擅城尊を喜屋擅城尊とも云ふ。みやこも云ふ。みぬ〻。みやこ。みぬ〻。みやこ。みぬ〻。みやこ

冬十月甲申朔。遣的臣祖口持臣喚皇后。爰口持臣。至筒城宮。雖謁皇后而黙之不答。時口持臣。沾雪雨以經日夜伏于皇后殿前而不避。於是口持臣之妹國依媛。仕于皇后。適是時侍皇后之側。見其兄沾雨而流涙之歌曰。

椰莽辭呂能。山背苑々紀能泝椰珥。筒城之宮所也。筒城は今の綴喜郡也。おのづからいふ名も。上の苑藝泥布の義なり。

茂能莽烏輸。物啓也。万葉卷十六。石竹。呂亦吾物申。ものもうす。苑々紀。人うものもうす。請謁也。この臣。くるまの中。口持の名。貢。我兄乎見者也。口持臣を能岐美波。古事記。阿賀勢。

那泝多愚奪辭茂。涙催之也。聚催す。上やくもの伺なよい。

時皇后謂國依媛曰。何爾泣之。對言。今伏庭請謁者妾兄也。沾雨不避。猶伏將謁。是以泣悲耳。時皇后謂之曰。告汝兄令速還。吾遂不返焉。口持則返之復奏。

○巻十六。石竹。呂亦吾物申。ものもうす。苑々紀。人うものもうす。請謁也。この臣。くるまの中。口持の名。貢。我兄乎見者也。口持臣を能岐美波。古事記。阿賀勢。

那泝多愚奪辭茂。涙催之也。聚催す。上やくもの伺なよい。

○巻。男。男。妻。妹。兄。又男。背。

于天皇。

十一月甲寅朔。庚申。天皇浮江幸山背

時。桑枝泛水而流之。天皇視桑枝歌之

曰。

菟怒瑳破赴。羅佐延也。岩ヨカ〻ル愛語也。師説ヲ云。古ヘハ。角綱羅

と。ヲ。ヲ〻〻〻いふが為ヨ。羅を都奈ヨ。都奴とも云と

いへ。はて瑳破赴の瑳ハ。佐夜小男鹿。などゝ云て。助語とすべきを。又を

麦延の。約言ともやあ〻。師説。怒瑳の約多ければ。都麦波帝の。麦といふ約

し。祇師の冠辭考ヨ。

併。又ヲ〻〻。

以破能臂謎餓。石之姫之也。飫朋

呂伽珥。九加尓也。万葉ふ巻六ヨ。大夫去跡云道曾九可尓念而行勿巻廿ヨ。

安麦良之伎吉用伎曾乃名曾曾於須呂加尓。已許乎放毋比互。云云。

度の約ヨ。あ行ヲ与

といふるあ例し。

枳許瑳怒。不会聽也。古事記仁德條ノ。ヨ。富

伎弥斯與斯登岐許佐婆万葉巻十一ヨ。

不知二五寸許須巻十三ヨ。毋寸許勢友巻廿ヨ。可久志伎許佐波万葉巻十一ヨ。

とい〻ふ。ヲ。ヲ。ヲ

明日乗輿詣于筒城宮喚皇后皇后不
参見時天皇歌曰。古事記云。口子臣。示其妹口比賣及奴理
能美三人議而令奏天皇云云。示天皇
御位其大后所坐殿戸
歌曰。と号す。

菟藝泥赴 如上註。 椰麼之呂謎能 山背女之也。河内女倭女。
許久波茂知 小鍬持也。小き大ゆれ小の名し。又き深き。そこ小田の小
八き又の 于智辭於朋泥 打之蘿蔔也。打と八今も畠を打田を打
八かり。 鍬打。かとの作る。婦をとり。蘿蔔。
の根氏大なるあれ名今そ
大根と字を言ふ。
佐和佐和珥 騒々示也。騒々。
佐の黄。騒々。騒々。
御民巻五。佐和久子等と。畠を手者。
今のそらも。佐和賀。

難我伊弊劉虚曽 此言者自也。婆と有。古
言の格也。謎體紀の歌に倭我添細麼。 于和和多須 打渡也。万葉巻
四。打渡。
之原。長第。
耶餓波曳難須
彌不生成也耶。今ヤ那。
耶の字。
倶も。
吳の格音
椰麼之呂謎能。
椰。
椰。
椰

示歌曰。

菟藝泥赴。句。夜莽之呂謎能。句。許玖波茂知。句。于知辭於朋泥。以上四句如上註。泥士漏能。根白之也。辭漏多娜武枳。白臂也和名初陸詞切韻曰。

根の白き臂。宮人の御手。白きこと。

次の句へいづ手多へるやも。

腕。馬段反。和名太ゝ無岐。二字。字天。手腕也。新撰字鏡。臂太ゝ年伎とあり。向股の名。

向ゝ。卯臂といふめる。

麼簡儒鷄麼虚曾。不纏來者也。万葉巻三。尚不如家利巻四の端ゝて不纏ゝれ。辭羅儒等茂伊波梅。不紐等也。言也。

枕をまき。

ハぬゝ。いゝ。

○日本紀歌解中

○ト五

○書紀。於是女鳥王坐機而織服。示天皇歌曰。

倉見村理能和賀倉。冨岐美能波呂漏波多他賀多泥呂迦母。

女鳥王答歌曰。

多多如由久夜波夜。左和気能美流頻比賀泥。

不紐といふ。

べしと。

時皇后令奏言陸下納八田皇女為妃。其不欲副皇女而為后。遂不奉見云云。

四十年春三月。納鴨鳥皇女欲為妃。以隼別皇子為媒。時隼別皇子密親要而久之不復命。於是天皇不知有夫而親臨鴨鳥皇女之殿。時皇女織縑。女人等歌之曰。古事記。本書と二字とし。女を昭和

比佐箇多能。日刺方之也。はめる方の義。阿梅箇雞藝
多。天綺之機也。里を省き之を無二紀ハ綺戸邊とあるを古事記ハ天羽田
刀辨とあり。加利波多ハ加賀里機也。万葉巻十四ノ筑紫ノ方ノ児
ゆゑよ見ねば乃久能加乃刺平登賣の由比思比毛等久とあるあるを児ノ對
して綺少女といへるなり。女巧とかくべし。即女神ほめる言葉なり。比
とばこゝも綺を女王ノ比しるべき綺を連
總別皇子のごとしいへるなり。謎迦利餓嶋鳥之也。於
瑠箇雞藝多織綺機也。如上註。波椰歩佐和氣能速總別之
佐。皇子の名。
弥於須臂鵝泥。御襲我称也。このおほきみ女のかゝる押口
名。
ぬれ歌とのやうに古事紀ハ千弟彼ハ神代紀ハ多和賀遠女伊麻陀登加受豆麻陀比
遠女伊麻陀登加泥婆云云。万葉巻十四ノ古事賀誓伎能技能云云。意なるべきを
おもきハ男ノ服ノ事ハ男ノ服ノ事ハ自ノ性ノ事ノ事ノ事

[illegible]。婆羅岐等羅佐泥。鵠鶏を捕也。かもくも大鷦鷯を殺也。文字を奪ふ。

天皇聞是歌而勃然大怒之曰。朕以私恨不欲失親忍之也。何豐矣私事將及于社稷則欲殺隼別皇子時皇子率鳩鳥皇女欲納伊勢神宮而馳。於是天皇聞隼別皇子逃走即遣吉備品遲部雄鄕播磨佐伯直阿俄能胡曰。追之所逮即殺云云。雄鄕等追之至菟田迫素珥山時隱草中僅得免急走而越山。於是皇子歌曰。

破始多豆能。榜立之也。榜を立てゝ。山の嶮しきをとりふ也。古事記ハ。久良波斯麻波とつゞまるなり。万葉巻也。

橋立倉橋山。又橋立倉橋川とも。みゝゝゝと榜ハ和名抄ハ。郭知玄云。櫓。音魯和名カロ。木階所以登高也。

佐餓始枳椰摩茂。嶮山。和藝毛古等。與吾妹子せ。むかいもらと。寄伊の約藝乎。我藝を和藝傳といへゝと。同

倭。

赴駄利古喩例。二人越有者也。

椰須武志呂箇茂。安席就也。安席ハ。祝詞ゝ安乎平久。安きハ即子らの所ゝ志ゝ。席ハ身代ゝて。いろ人ハ。代の云ハ上ゝ。顕宗紀歌ゝ伊儺武斯盧弩敦泝比

○刺り汎三波斯多底能久良波斯麻波佐賀志美弩伊波如伎如況色和賀久色登豆良煩母又歌曰波斯多底能久良波斯麻波佐賀斯祁打伊毛登能頻禮波佐賀斯珠母阿良麦

野儺擬。師の冠辭考に。寐席草とあるべきよしいへり。古事記傳に。理
毘賣命の御歌に。年斯夫須麻。といへるも。席衾にて寢所なる數衾なるべし。
萬葉四卷の考に。安席とて。寢所の事なれば安くしらるるなりといひ
記に。妹とわが寢。嶮しき山路も。多比とわれ。おもふ。
いかに。

爰雄鄭等。知免以急追及于伊勢蔣代
野而殺之。

五十年春三月壬辰朔。丙申。河內人奏
言。於茨田堤鴈產之。即日遣使令視曰
既實也。天皇於是歌以問武內宿禰曰。

古事記に。一時天皇為將豐樂而行幸日賣嶋。振津國之時。於其島雁生卵。尒
召武內宿禰命。以歌問焉。生卵之狀。其歌曰云云。河內と。摂津とをの傳
ふ。

多莽耆破屢如上註。宇知能阿曾如上註。儺虛曾破
汝乞者也。乞ハ助辭也。汝ハ親しみ稱。豫能等保臂等世之遠人也。遠しハ言
遠きことをいふ。萬葉卷九に。遠妻。高麗有世婆。といへるも。妻を。
ものとしいふ。卷十一に。高々二吾待君。といへるも。卷四。卷十二。卷十三。卷十
八。卷十七。なども。
儺虛曾波如上註。區珥能那餓臂等國之長人
也。長國第一の。長者。阿耆豆辭莽秋津島也。神武天皇。大洲云ふよ
め人と。なづけ給ふ。
倭國を。なづけしことは。後に。畿內を。直
ても。いひて。次の。耶麻とのこと。
椰莽等能區珥々

○ちなみに。紀ハ。武內。金能那賀。が比登。とあり。
次の二句。

○古事紀ハ。阿耆豆辭莽。を。蘇良笑。
都。と。せり。倭の。
說。石。考。

於倭國也。倭とも上つもいつかつ。大和国一国共号称とも武内とうけてふとも
なを後ハ数て大ハ国おうよみつる称とも[illegible]堂長の号考の説
なれハ今ハ省る。倭の号の統也。箇利古武等。鳴卯産登せうむの
字と有ハ言や。
古事記。加理古牟登岐難波企箇輸椰。汝者鳴卯産哉也加須を約
夜輸椰。
夜とあり。次句。
よ。岐々夜とあるの同じ。
[illegible]

武内宿禰答歌曰。

夜輸弥始之賀見為之也下ハ之ハ助。和我於朋枳弥
辞。万葉考よ去。
ハ。我大王者也。
波。我大王者也。
[illegible]
[illegible]
[illegible]

第十二卷。去來穗別天皇。一首。

八十七年春正月。大鷦鷯天皇崩。皇大子自諒闇出之。未即尊位之間。以羽田矢代宿禰之女黒媛欲為妃。納采既訖。云云。爰仲皇子。畏有事。將殺大子。密興兵圍大子宮。時平群木菟宿禰。物部大前宿禰。漢直祖阿知使主。三人啓於大子。大子不信。一云。大子醉以不起。故三人扶大子令乘馬而逃之。仲皇子不知大子不在。而焚大子宮。通夜火不滅。大子到河內國埴生坂而醒之。顧望難波。見火光而大驚。則急馳之。自大坂向倭。至于飛鳥山。遇少女於山口。問之曰。此山有人乎。對曰。執兵者。多滿山中。宜迴自當擎徑踰之。大子於是以為聆少女言而得免難。則歌之曰。

於朋佐箇珥。於大坂也。大和国葛下郡にて。今の竹内越
大坂山口神社。[illegible]せもの[illegible]と。国府越[illegible]の向よ。一道あり[illegible]の[illegible]大坂村なり。
因丹比郡[illegible]村[illegible]。大和国人のいへ[illegible]。[illegible]呼謂。[illegible]
[illegible]の王子[illegible]鳥山[illegible]。[illegible]已いまゝ親[illegible]の阿布夜烏等
地[illegible]。[illegible]。[illegible]。

佐瑳餓泥能

小竹之根之也。細とゝふ云ふなり。

佐瑳餓泥能

小竹之根之也。細とゝふ云ふなり。

○古今第二ゆゝしかりけり。

○古今第二ゆゝしかりけり。

○さゝらめをハ。巻四。巻。紀ゝ。

佐瑳羅餓夜。

細紋形也。ちゝらゝ小き紋。

細紋を佐々良手擬和名抄。細石。和名佐々礫伊之。方言

小波。ちゝらゝ。

形ハ紋をゝ。

喜神名帳。伊勢國多氏部服部員方神社。

同大神宮式御装束料。

佐瑳羅餓夜。

細紋形也。ちゝらゝ小き紋。

細紋を佐々良手擬和名抄。細石。和名佐々礫伊之。方言

小波。ちゝらゝ。

形ハ紋をゝ。

喜神名帳。伊勢國多氏部服部員方神社。

同大神宮式御装束料。

迩之枳能賀毛弘

錦之細手也。

上細下細。

迩之枳能賀毛弘

錦之細手也。

上細下細。

舍氣帝

解開而也。万葉巻十一。

舍氣帝

解開而也。万葉巻十一。

紀の豐祝の下。

紀の豐祝の下。

阿麻咬絆泥受迩

數多者不寝不也。今本。泥受迩とゝ。

阿麻咬絆泥受迩

數多者不寝不也。今本。泥受迩とゝ。

逝ハ訓ヲ[illegible]ベシ。紀中ノ[illegible]ノ例ヲ見ヒ[illegible]仮ヲ[illegible]ル。釈紀ハ逝ニ又仮ヲ[illegible]ル。字畫ノ似タルヲ[illegible]ル。今案ズ[illegible]

多儀比

等用能来。唯一夜耳也。[illegible]ハ[illegible]ノ解ヲ[illegible]ル。[illegible]ハ[illegible]ノ[illegible]ル。[illegible]ノ[illegible]ル。[illegible]ノ[illegible]ル。

[illegible]

十一年春三月癸卯朔丙午奉於茅渟宮衣通郎姫歌之曰

等虚辞倍迩（常經尔也倍ハ上條建命の條なるより考統の條も常經尔也倍ハ上條建命の條なるより考統の條も常之倍尔と書べき歟）

枳弥母阿閇椰毛（君毛ハ敬毛也椰ハ與ゝ毛ハ敬の辞下ハ年ゝ助辭ゝ）

異舎儺等利（不知魚取也海ゝ部ゝ雷魚取也と云ゝ雷魚鱸魚ゝ也壹岐風土記ゝ云ゝ鱸魚ゝ伊佐ゝ鱸魚取海の海ゝ也ゝ）

[illegible]

八回語ゝ[illegible]伊佐倭利と[illegible]

べし。[illegible]伊佐奈取ゝ漁の不知魚

とすべし。[illegible]

奈利ゝ[illegible]

利ゝ[illegible]

[illegible]

捕ゝ[illegible]不知魚取ゝ[illegible]

阿佐[illegible]

[illegible]

[illegible]

義也。[illegible]

[illegible]

毛能（海之濱藻之也。左の歌ゝ云ゝ漢語抄云ゝ神馬藻三字云ゝ奈乃里曽但神馬莫騎之義也ゝ）

宇瀰能波寧（[illegible]）

余留等枳等枳弘（依時々乎也濱藻の濱也ゝ[illegible]）

時天皇謂衣通郎姫曰是歌不可聆他人皇后聞必大恨故時人號漬藻謂奈能利曽毛也。莫花藻也。花とハ上ゴ云如く。つぐとハ浸ぐ也。花云也。

二十三年春三月甲午朔庚子立木梨輕皇子為大子容姿佳麗見者自感同母妹輕大娘皇女亦艶妙也大子恒念合大娘皇女畏有罪而默之然感情既盛殆將至死爰以為徒非死者雖有罪何得忍乎遂竊通乃悒懷少息因以歌之曰

阿資臂紀能足引之山かゝり乳隠張足ハ山の裾をいハ引くハ山の裾ハ足引の枕詞なり。

多那企貳

和餓儺句

去鑄去曽

和餓儺句莵弊

簡咬儺企貳

二十二年夏兵月。御膳羹汁凝以作氷。天皇異之卜其所由卜者曰。有内亂。蓋親々相姦乎。時有人曰。木梨輕大子。姦同母妹輕大娘皇女因以推問焉。辭既實也。大子是爲儲君。不得罪則流逐大娘皇女於伊豫。是時大子歌之曰。

君不得罪。[illegible]

於褒企弥鳥。大君乎也。大君ハ天皇皇子諸王ぞその称也。女皇ともせる。万葉ハ[illegible]。巻三の[illegible]。志摩珥波夫利。嶋示放也。島とハ但馬國とか[illegible]。波夫利ハ[illegible]。[illegible]。故載之天磐櫂船而順風放棄云云。

この故事の二字ハ[illegible]。神代紀ニ示斬波布理其軍士殺日[illegible]兵地謂波布理曽能万葉巻二ニ玉藻良津藻朝羽振風社依米夕羽振波社来縁[illegible]。

布雛阿摩利。

異餓幣利去年。

和餓咬咬弥由。

梅。我畳勤也。万葉巻十五ニ到壹岐嶋雪連宅満遇患疱瘡死去之時作歌[illegible]。

[illegible]

[illegible]

又歌曰。

阿摩儀霧。天飛也。登[illegible]。玉梓の[illegible]。

去等鳥許曽。辭也。

異絆梅。畳[illegible]。

和餓苑摩鳥。

由梅。我妻手勤也。手ハ[illegible]。

咬多弥等。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

悦等賣乃遠童壹[illegible]

異咬儺外麼[illegible]

簡留

臂等資利奴陪淤

幡舍能夜麼能

波刀能

資咬

儺企迩奈句

穴穂天皇。二首。安康天皇。

是時大子行暴虐淫于婦女國人謗之。群臣不從。悉隷穴穂皇子爰大子欲襲穴穂皇子而密設兵。穴穂皇子復興兵將戰。故穴穂括箭輕括箭始起于此時也。時大子知群臣不從。百姓乖違乃出之匿物部大前宿禰之家。穴穂皇子聞則圍之。大前宿禰出門而迎之。穴穂皇

子歌之曰。（古事紀ニこゝの二首。允恭の條にあり。）

御子興軍圍大前小前宿禰之家。小到其門時。雹氷雨。

故歌曰。

於朋麼弊。大前。烏麼弊輸區逕餓。小前宿禰之也。事紀ニ物部大前宿禰。

氷連等祖。小前宿禰。田部連等祖。並參入宿禰之子也。とあれども。二人の名とこゝ。

且ど。なりもしよりのあるを。全く一人の名也。紀に氷連。石上朝臣同祖。

饒速日命十世孫伊香色雄之宿禰之後也。とあれど。同事紀の參入宿禰のまこと

へるをいひ。なほ〳〵疑はし〳〵。なほ。この紀の意。大前宿禰とのみあり。小前を

いはぬ。かゝれば。一人の名とぞ。大も小も。事紀の名をいふべし。

傳に。大前。小前。と。言ふ。とのはべり。

ら。ら。詞那杜加礙。垣之門陰也。このうの字を省略。万葉卷四。うり金

ら。ら。物悲良尓。念有之。等。金門尓之入乃来之

者。ものゝ金とあるを。皆假字也。卷十四。児呂我可奈門欲。又可奈刀田とも

えて。後の加杼田とのみ。ものめ加奈門田乃畢。物。卷四の解。詳せ。

詞區多智豫羅泥。如是立寄禰也。五言。この垣門の法。立寄るべ

き。大宮宿禰の吾戸。の意。彩よ

余利詩泥とあり。

阿米多知夜梅年。雨將立止也。古事紀ニ雹天氷

雨とゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝこの垣門法。立寄。雨を止。むべき。宿禰のうれし

き。事。ゝ。ゝ。世。紀と。法。ゝ。ゝ。ゝ

豫年。宮人動也。乞々穴穂皇子、宮人を攻佐杜殊等茂由
梅。里人毛努力也。里人もの下ゑ等余年とゆふ三言を今知りかゝる
べし。この三言を上ゑ獲り首々る。武烈紀に里人八宮人ゑ對て
もの真人ともの。宮人ゑ。真人ゑ。
力数動て。ゑ〻ゑ〻。織ゑ〻ゑ〻。

乃啓皇子曰。願勿害大子。臣將議由是
大子。自死于大前宿禰之家。一云流伊豫国。

第十四卷。

大泊瀬幼武天皇。九首。雄略天
皇。

是日大舍人。驟言於天皇曰。穴穂天皇。

為眉輪王見殺。天皇大驚。即猜兄等。被
甲帶刀率兵。自將遍問八釣白彦皇子。
皇子見其欲害。嘿坐不語。天皇乃拔刀
而斬。更逼問坂合黒彦皇子。皇子亦知
將害。嘿坐不語。天皇忿怒弥盛。乃復弁
為欲殺眉輪王。案効所由。眉輪王曰。臣
元不水天位。唯報父仇而已。坂合黒彦
皇子。深恐所疑。竊語眉輪王。遂共得間

而出。逃入圓大臣宅。天皇使使乞之。大臣以使報曰。蓋聞人臣有事。逃入王室。未見君王隱匿臣舍方今坂合黒彦皇子。與眉輪王。深恃臣心來臣之舍誰忍送歟由是天皇復益興兵圍大臣宅。大臣出立於庭索脚帶時大臣妻持來脚帶愴矣傷懷而歌曰。

飲泉能古歟。臣之子者也圓大臣と云へ。臣とハ朝廷に仕奉る。臣人とゝ云ふ称。既に仁德紀の歌にも子ハ志

○万葉卷十二里近家戀
[illegible]

多倍能婆伽奪鳥。帛之縫乎也。多倍ハ布帛の通称。袴ハ男子の服なり。

那々陛鳴施。七重着也鳴施。賣須ハ須ハ[illegible]

爾播尓陀々始帝。庭尓立而也。ちなる紀別註訓立云々志ゝなり。阿逓比那陀須暮。脚帶之徒名也。乃阿の約那なれ。[illegible]

[illegible]

大臣裝束已畢進軍門跪拜曰。臣雖被

戮莫敢聽命古人有云匹夫之志難可
奪方屬手臣伏願大王奉獻臣女韓媛
與葛城宅七區諸以贖罪天皇不許縱
火燔宅於是大臣與黒彦皇子眉輪王
俱被燔死
四年秋八月辛卯朔戊申行幸吉野宮
庚戌幸于河上小野命虞人駈獸欲射
而待乾疾飛來噆天皇臂於是蜻蛉
忽然飛來螫噆將去天皇嘉歟有心詔
群臣曰為朕讃蜻蛉歌賦之群臣莫能
敢賦者天皇乃口號曰
野磨等能倭之也古事記ハ美延斯怒能と有
該爾小村之嶽尓也今在吉野郡
ハ今あほらの小村の里あるべし。そこに山をかすむ
記ハ教年海賀多毛尓とあり。
之々符須登獸卧登也之と
猪鹿の通称
ハ
拖例柯舉能居登誰欲此言と古記ハ
礼曾ろろこのみと
の四言ハ
飫裒擘陛伊摩鳴須大前小麦也大ハ弓称也天皇
御自ら歌ふる事也

○[illegible]六の奥津伊久利二顆珠左盤示潛出[illegible]彼[illegible]の解[illegible]

[illegible]武天皇の天皇朕宇豆能御手以[illegible]
[illegible]本。以飫裒麼陛你麼鳴須易飫裒枳弥你麼鳴区大王永
[illegible]也。[illegible]當代天皇[illegible]
[illegible]万葉巻三[illegible]紀[illegible]

飫裒枳弥敷。大王者也。天皇の御自称也。[illegible]万葉巻三[illegible]紀[illegible]

賊據鳴枳舸斯題。其所乎所周而也[illegible]
[illegible]巻一[illegible]諸之怜之巻二
[illegible]其故[illegible]

柢麼々枳能。玉纏之也何[illegible]

螺鈿の類[illegible]
霊帝好胡服京皆作胡床。此間名[illegible]
[illegible]

阿娛羅你陁々伺。立胡床也。和名抄云。風俗通云。

施都麼枳能。倭文纏之也[illegible]
[illegible]倭文幡
[illegible]

阿娛羅爾

陁々伺。如上註。[illegible]紀[illegible]上六句[illegible]須
美斯々和賀汝[illegible]美能[illegible]二句[illegible]

斯々麼都登。実待登也。倭我伊麻西磐。朕坐者也。佐調麻都登。小猪待登也。佐[illegible]
[illegible]小牡鹿
の[illegible]

倭我陁々西麼。朕立為者也。古事記[illegible]倭我伊麻西麼[illegible]

良尓。伊麻志斯涌多同能蘓豆岐曽那布。の三句[illegible]
胡床[illegible]坐白妙之袖着備也[illegible]
手脛尓也。和名抄云。脛。陸詞云。脛。音肥訓古無良尓周易。脚脛也[illegible]
古事記[illegible]八多古年良尓[illegible]
[illegible]肉[illegible]胡久美[illegible]阿[illegible]和名抄[illegible]
[illegible]の[illegible]

陁倶符羅尓。

阿武柯枳都枳。蚯蚓着都也。和名抄云。説文云。蚯。莫衝反。與同字。亦作蚓。和名阿太[illegible]
[illegible]掃[illegible]
[illegible]紀[illegible]

曽能阿武

鳴。其蚊手也。娜枳豆波野俱臂。蜻蛉遠喰也。蜻蛉とかぎろひ[illegible]
抄[illegible]加伊[illegible]帝の[illegible]
[illegible]阿伎豆[illegible]名[illegible]
べく駁[illegible]の[illegible]
よいも。

飫哀枳瀰伊。如上摩都羅符。仕奉也。[illegible]
ふハ。上景行紀
の[illegible]に[illegible]
[illegible]帶[illegible]者[illegible]の解[illegible]
[illegible]

我柯陁播於柯武。汝之形者將置也。[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

逢人則止。宜迎射而且刺。舍人性懦弱。
緣樹失色。五情無主。嗔猪直來。欲噬天
皇。天皇用弓刺止。舉脚踏殺。於是田罷
欲斬舍人。舍人臨刑而作歌曰。（古事記ニ。又一時天皇云云。）
豆坐擎上示
歌曰。
野須瀰斯々。句。倭我飲裒枳瀰能。句。二句。上々註がめし。
阿蘓麼斯志。所遊也。
ちなり。記。神代條ニ。日八日夜八日夜以遊。とあるこれなり。記
又仲哀條ニ。猶阿蘓婆勢其大御琴。云云。なかのえもちまつりて。万葉巻二ニ。君跡時

時幸而遊覽比ニ。猪ニ。
いつるを。しかるに。猪ニ。
時幸而遊覽比ニ。猪ニ。
斯々能宇
枳。猪之呼也。宇枳枳。
枳。猪之呼也。宇枳枳。
鳴能宇倍能。
對馬乃渡。
波利我曳
陀。
皇后周悲興感止之云云。

○日本紀歌解中　○北五

六年春二月壬子朔乙卯天皇遊于泊瀬小野観山野之体勢慨然興感歌曰

舉暮利矩能隱城之也終とらめとかるの意也依て矩とあふ音也

播都制能野磨播泊瀬乃山者也

伊底枳智能出立之也

與盧斯企夜磨宜山也

同巻十三ノ

隱來之長谷之山青幡之

忍坂山者走出之宜山之出立之如山叙

和斯里底能走出之也和斯里ハ上ノ和志勢ノ和志と同類

○日本紀歌解中

播都制能夜麻播如上阿野儛宇羅虞波註

斯

文ハ心細也文ハ阿爭ノ反

巻十三ノ

朝日奈須目細毛暮日奈須浦細毛

目ハ心ノ

阿野伊于羅虞波斯如上

○共六

於是名小野曰道小野。この山と愛しみ給ふ。[illegible]
山路とふ名づけ給ふ。[illegible]
又高名あり。考べし。

十二年。冬十月癸酉朔。壬午。天皇命木
工闘鶏御田始起樓閣。於是御田登樓。
疾走四方。有若飛行。時有伊勢采女。仰
觀樓上。忤彼疾行。顛仆於庭。覆所擎饌。
天皇便疑御田。幷其采女。自念將刑。而
付物部。時奉酒公侍坐。欲以琴聲使悟

於天皇。横琴彈曰。

柯武柯嗟能。神風之也。伊勢能。伊勢之也。伊勢の國のことゝ
如上註。
沙ゝ[illegible]の伊勢の事といふ[illegible]
[illegible]三字。重復衍字。[illegible]
[illegible]。伊勢能故能。伊勢之子也。故[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。

[illegible]

既よ上り来て、[illegible]

柯枹倶都　柯倍堅固仕也。摩都羅武騰　奉登也。

上より[illegible]堅仕奉る。樓閣と訓む。[illegible]樓閣と送る。仕奉

[illegible]忠勤よ。[illegible]延喜式祝詞の天乃御蔭日乃御蔭止仕奉る。倭我

[illegible]教と送る。[illegible]

伊能致謀　我命も也。[illegible]上五石紙。伊那我倶母

[illegible]の糸如[illegible]

鵝騰　長毛欲得登也。[illegible]長く[illegible]伊比志枹倶

[illegible]樓閣を。送成[illegible]

弥幡夜　言志ユ波耶也。エハ都鶏のユとさん波耶ハ。阿枹羅陁

[illegible]

倶彌幡夜。惜ユ波耶也。[illegible]神代の傳よ。埋溝者地矣阿多

良斯登許曽云云。同仁徳傳よ阿多良須賀波良乃[illegible]

[illegible]

於是天皇悟琴聲而赦其罪。

十三年春三月狭穂彦玄孫。歯田根命。

竊窃采女山邉小嶋子天皇聞以歯田

根命収付於物部目大連而使責讓歯

田根命。以馬八匹大刀八口祓除罪過。

既而歌曰。

耶摩能謎能。山邉之也采女の氏也。姓氏録云。山邉公和爾

朝臣同祖大鐸石和居命之後也。[illegible]故思

麼古喩衛爾小嶋子故尓也小嶋子比登泥羅賦人衛也万葉巻十八ノ。波利夫久路。於婢都乞奈我良佐乃其等迩天良佐比安流乞騰比登毛登賀未授。衛ハ。宮書ニ。自矜也。と訓せり。

宇麼能耶都擬播。馬之八疋者也。つぎとハ。左右純ニ。子之一木と。ロ。即次ニて。此〜の名とおもへバ。あの耶都都擬も八次等なるべし。その負数と。ロ等なるべし。上弟武純の詠ニ。

秋九月木工猪名部真根。以石為質。揮斧剉材。終日剉之。不誤傷刃。天皇遊詣其所。而恠問曰。恒不誤中石耶。真根答曰。竟不誤矣。乃喚集采女。使脱衣裾。而著犢鼻露所相撲。於是真根暫停仰視。而剉。不覺手誤傷刃。天皇因嘖讓曰。何處奴。不畏朕用。不負心。妄輙答。仍付物部。使刑於野。爰有同伴巧者。歎惜真根。而作歌曰。

婀枹羅斯枳。偉儺謎能陁倶弥。

○日本紀歌解中

○卅九

為奈部ハ真根ノ氏ト云フ也。姓氏録未定雑姓。摂津國係ノ為奈部首。伊香我色乎命ノ六世孫。金連之後也ト云々。

柯該志須
弥灘播。所懸墨縄也。和名抄云。内典云。端直不曲喻如繩墨。涅槃経文名須美。ト訓ス。万葉巻十ノ墨縄袁幡倍多留期等人。巻十ノ斐太人乃打墨縄之云云。墨縄ヲウクトハ。

肯我那誓奪。其之亡有者也。今ノ世ニ云ヒシ。ウツスミナワノ。ウツスミナワノ。ウツスミナワノ

磨。甲斐之黒駒也。奚仲云。武匈と再云。軍ハ甲斐の黒駒の。逸足なるあらばぐ。
あ〜〜真拓が命を。穀ぬべし。真拓が刑と通ずる。偏に逸駒の力ぬ
きぐ。何怜黒駒哉と褒るや。第四句を読切るべし。甲斐の黒駒も死ぬるもの
中のまぬべしといふ。一本換伊能致志難磨志而云伊志柯孺阿羅摩志。
伊不及有麻志也。上の伊ハ発語。下の
麻志ハ助辞。不及將省のこと歟。

二十三年秋七月辛丑朔。天皇寢疾不豫云云。是時征新羅將軍。吉備臣尾代。行至吉備國。過家後。所率五百蝦夷等。聞天皇崩。乃相謂之曰。領制吾國天皇既崩時。不可失也。乃相聚結。侵寇傍郡。於是尾代。從家來。會蝦夷於娑婆水門。合戰而射蝦夷等。或踊或伏。能避脫箭。終不可射。是以尾代空彈弓。絃於海濱。上射死踊伏者二隊。二槖之箭既盡。即喚船人。索箭。船人恐而自退。尾代乃立弓執末而歌曰。

泝致儛阿賦耶。於道遇哉也。乞ハ尾代ガ。從家來會蝦夷於娑婆
波郡ノ水門をいふ。娑婆ハ和名抄ニ周防國佐波郡ニ佐
の水門あり。
嗚之慮能古。尾代之子也。子ハ壯年の
称。吉備臣ガ自称なり。阿毎

你(ニ)拳(コ)曾(ソ)。天上ノ事也。枳(キ)拳(コ)曳(エ)孺(ズ)阿(ア)羅(ラ)毎(メ)。不(キコエ)聞(ク)矩(ク)
爾(ニ)々播(ハ)。於國者也。天上ノ事ハ。助辭。枳(キ)拳(コ)曳(エ)底(テ)那(ナ)。將(キコエテム)聞也。おほ
いへハ。ちの下つ国ハ。おのゝ
こゝ。を上ゝ。ゝを。ゝゝ。ゝゝ。大八洲國内ゝ。ゝゝ。自慷慨ゝ。
ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。

為室壽曰築立稚室葛根築立ハ新室を造建さるを云稚ハ即ちひと訓べなり也賞新室云云と上に出るを紀ぶ巻十一に新室乃壁艸如尓御座給根云云葛根ハ延喜大殿祭祝詞に下津磐根古語繩之幾謂波府虫乃稠無久と有を師説に云顕宗紀の室賀の御詞神代紀の大己貴命の宮の条に天之御巨紀の栲縄の千尋の綱を云云の注に狭布の細布と云云の注に狭布の細布ハ上下縦横に千尋の綱を結周しを葛根

此家長御心之鎮也柱楹の二字合して一つの柱を訓べし和名抄に云説文云柱音注和名波之良功程式云楹音盈柱也唐韻云楹音盈柱也と有に長ハ家主を云ふ師説に訓べし家を出るあれハ家を出る訓べし築立る柱を訓べし

取舉棟梁者此家長御心之林也棟梁の二字合してうつばりと訓べし和名抄に云唐韻云梁音良和名宇都乎利棟梁也と有に梁の字

く繋きまきて心の中に斬り出て嬉しき也

取置椽棟者此家長御心之齊也椽棟の二字合して太流木と訓べし和名抄に云説文云椽音養和名太流木揚氏漢語抄云波月岐在穩雨下垂也兼傳間抄云唐韻音人漢語抄云波月岐と有に椽を太流木と訓べし

蘆葦者此家長御心之平也蘆葦此云哀和名都利之潤反揚氏漢語抄云葦乃衣都利と有に蘆葦ハ故宮反草也多樣非也

取菅草葉者此家長御富之餘也菅草ハ菅州の名也

堅也繩葛者此家長御壽之

○万葉巻十四に[illegible]

○柯佐也の也は[illegible]本に[illegible]

の[illegible]の[illegible]

出雲者新墾

[illegible]

新墾之十

[illegible]

握稲之穂

[illegible]

於浅甕醸酒

[illegible]

立成云浅甕[illegible]

[illegible]

呼妖[illegible]

美飲喫哉

[illegible]

可笑也[illegible]

[illegible]

万葉巻三の

解[illegible]

吾子等

[illegible]

脚日木

[illegible]

此傍山

[illegible]

牡鹿之角

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○後の字よりこの下の字とあるハらの英賀之の字かるべし。

○万葉ふつの櫂上傳保と
つゞけ[illegible]ちう
[illegible]

市司と云へり。釈紀に。河内國い住吉。河内國に恵賀長野陵あれば云うよやあ〜んされじ播磨の子〜〜。河内国の名ふと新ハおのハんを。
云ふ。是ハ和名抄に。国郡部播磨郡の郷名に。英賀加と云へるかうハあめ。

不以直買十握稲を淺甕醸る酒のみ
ば。市に買る酒のごとし。

手掌懐亮手掌懐亮此云陀那則謀那羅々你一本則と対
と。稱云へ。たゞ〜たゞ〜。

る形〜。たゞづちと訓るゝ。あぐ〜ちと訓るゝ。
則ちあ〜ち是かゝ〜んゝ。
仁應紀に。寒亮を比やゝの形〜と訓る。懐と。寒と音のあへて。ゆゝ形〜
る。比ゝと形〜〜と。いゝ形〜〜。ゝ。ゝ。鳴〜〜て。下
の字を助辭。今亦別ゝの字。畫の形〜〜。那〜〜と字畫の形〜〜。
辭ゝ〜〜。耶〜〜〜〜。ゝ。ゝ。寒亮と云ふ。
歩とふ云ふて。下の拍上

拍上賜打上ハ。宴のたゝ云うゝげも式
をいとむ料の。序形〜〜。
式ゝ。三日。ゝ。ゝ。
ものあり。して。ゝ。

○日本紀歌解中

河を有き。弱〜。
と。支と。保〜。
〜〜。

〜〜とゝ。ゝ。ゝ。

殊儛 殊儛、口謂之立出儛、立出此云陀豆々儛、狀者作起作居而儛、
臣釈紀云、養老私記云、舞狀者作立作居而儛、今東舞是也、云云、

詰之曰、倭者彼彼茅原浅茅原弟日僕是
也、

[illegible]

小楯由是深奇異焉更使唱之天皇詰
之曰、石上振之神榲

[illegible]

[illegible]

於市邊宮治天下。此紀の末より吾父先王雖是天子之子遭遇迍邅不登天位。治天下。

[illegible]

[illegible]雄略紀に。天皇恨究穗天皇曾欲以市邊押磐皇子傳國而遂付屬後事。[illegible]

[illegible]

天萬國萬押磐尊。天足國足[illegible]

[illegible]

御裔僕是也。小楯大驚離席帳然再拜云云。

五年春正月。白髮天皇崩。是月皇太子

億計王。與天皇。讓位久而不處。由是天皇姉飯豐青皇女。於忍海角刺宮臨朝兼政。自稱忍海飯豐青尊。當世詞人歌曰。

野麻登陛爾。大和方ヲ也。古事記仁德條。黑媛のうよ夜麻登幣迩ヲ斯布伎阿宜弖云云。万葉。沖つ藻。東の都辺ヲ[illegible]

[illegible]皆方[illegible]

[illegible]也。彌我保指母能波。見之欲物者也。於尸農彌能。忍之海之也。乃宇ヲ約めて。如[illegible]。忍海ハ。大和の郡名也。[illegible]紀に葛城坂忍海之高木角刺宮とあり。忍海ハ。[illegible]葛城の[illegible]。

一説とハ別れるなり。苣能枹賀紀儺屢。此高城在也。城とハ稲城磯城の城なり。[illegible]

[illegible]を取聞るゐと[illegible]云や。古事紀。仁德條のおに[illegible]能曾能多[illegible]那流[illegible]。神武紀の[illegible]八田[illegible]。[illegible]。

都怒婆之能瀰野。角刺之宮也。青尊の大宮殿の名也。その宮室の美麗を稱美[illegible]。

冬十一月。飯豐青尊崩。葬葛城埴日丘陵。[illegible]紀[illegible]。古事紀[illegible]。載其治一年於清寧後者。皇代略曰。飯豐天皇不註諸王系圖。和銅五年上奏日本紀載之。然續日本紀和銅五年無載其事。前王朝陵記曰。今按和銅五年上奏日本紀載之。此日本紀者非今日本書紀。今日本書紀者相傳和銅五年九年。養老四年奏覽焉。云云。此所謂日本紀今亡。非傳不可得考。袋水鏡海道諸國記。並載此帝即位。稱以飯豐天皇而摽之。歷代為二十四代無窮記亦載之。歷代愚管抄。神皇正統錄。稱之飯豐天皇。本朝編年錄。國史實錄等。清寧之後。附飯豐天皇治世一年。皆可證也。故按之。[illegible]。青尊崩。[illegible]。

元年二月戊戌朔壬寅。詔曰。先王遭難。殞命荒郊。朕在幼年。亡逃自匿。猥遇水迎。升纂大業。廣求御骨。莫能知者。詔畢。與皇大子億計。泣哭憤惋。不能自勝。召聚耆宿。天皇親歷問。有一老嫗。進曰。置目知御骨埋處。請以奉示。置目老嫗名也。近江國狹々城山君祖倭佐宿禰妹。名曰置目。見下文。於是天皇與皇大子億計。將老嫗婦。幸于近江國來田綿敏屋野中。

姫出而見果如婦語畏詔老嫗置自居
于宮傍近處優崇賜郵使無乏少是月
詔曰老嫗伶俜羸弱不便行歩宜張繩
引組扶而出入繩端懸鐸無勞謁者入
則鳴之朕知汝到於是老嫗奉詔鳴鐸
而進天皇遥聞鐸聲歌曰
阿佐賦斯曜浅茅原也延佳神主古事記頭註曰按此歌自第一句至第三句皆言鐸鈴聲過山野因起鐸勢之語とのへ[illegible]
紀異[illegible]しいろ[illegible]も浅茅原ハ鳴噌称ようかれ[illegible]雑な
ら移ぐ山野をとて我いふとゆへ[illegible]
鳴噌禰須擬古事紀よハ遠淹ホとなれ小谷なるべく[illegible]
拓[illegible]まもるべくまもる[illegible]ハ[illegible]
小谷と小蔓[illegible]
称[illegible]
甫百道傳也知道の紙道[illegible]
の志神功紀の百傳度會縣ハ百道を傳渡るとらふ志よつけるもそ
の[illegible]紀ハ態神條毛々這多布都怒賀ハ聖[illegible]
巻三ノ磐余池よつづけ[illegible]百道[illegible]
の志よつづけ[illegible]
[illegible]
[illegible]

代紀の。瓊響璫々と云れぬてゆゝくといふ事し。ゆゝくと云ふ事万葉巻十一に。
玉かつらかけもとあるゝ。郎女の名なるべし。大たち佩といふものを。玉佩に擬
せるゝ。響とらふやとおもへ。今の世ハ。張子陸土より造りしに。万葉巻三に。竹玉
手鬘示貫垂とい作るも。今の世。古墳より堀出る玉に。管玉の多かるもの形を
なして。おもふに。形玉々小竹を。ゆゝくと。糸に貫ぬき。名ゆゑ。べしもの小竹を。
篠竹とも。竹とも。竹とハ。竹の多く生るゆゑ。おほ曲れ。竹なれ考
の。於を省て。母ハ辞也。次に。母ハ真也。由羅ハ。すべて。玉に。触て。鳴響を
云て。結て。由須の約も。由留の約も。由也羅ハ。由羅俱とも。由羅の約
留かるを。由羅ハ。揺こゝかるを。揺ハ。触て。鳴響を。揺ハ。揺こゝかるを。由羅ハ。揺こゝかるを。由羅ハ。揺こゝかるを。由羅ハ。揺こゝかるを。
ひて。結やかゝて。結ハ。結瓊之音も。真揺ハ。とんなべしとなり。之を
てゝ。結の云。於岐毎俱羅之墓。置目來良斯毛也。鐸の響を用
ゆるなり。
めせるを。置目とは。押歯王ハ。御骨を求めるゝ。おの老媼の見置しを
失ハ。ぐゝ。その地を知るを。置目と賜へり。古事記に。名を置目と賜へり。

目ハ刺えの
ゝ。

二年九月置目老困乞還曰氣力衰邁
老髦虚羸要假杖繩不能進歩願歸桑
梓以送殿終天皇聞悼痛賜物千段迎
傷岐路重感難期乃賜歌曰
於岐毎墓與置目毛與也毛與ハ助語。万葉巻一に。籠毛與布久志毛
與とあり。古事記に。意岐米母夜とあり。やとるハ。
ぶいつるハ。阿須用利歎自明日者也。
阿甫彌能於岐毎淡海之置目也。之ゝ近江國の産。
穿て。
彌野磨我俱利底

真山隱而也隱とかゝ久利と。體言より。つゞき。古言也。大和の國彌曳儒哥

ゝ。迫ゝ出へ山路を傳ゝ。かゝ後を切をのゝ。後例。

謨阿羅牟。不見哉將有也續。哀集の離おゝ。古のゝ。おゝ載られゝ。ゝ

ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。みやゝ。かゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

天十五